

## 授業づくりの入り口

### 主題そのものを捉える

※別紙資料：「主題解釈と教材解釈」

児童が「なぜだろう。」  
「どんなことかなあ。」  
「自分はどうかあ。」  
と積極的に考える  
発問（補助発問）に…。

主題・内容項目を読む → 教材を読む  
その後…

### 「主題解釈と教材解釈」

- ①この主題はなぜ大切なのでしょう？  
②それは、いつでもたやすくできますか？  
③それでもやっぱり大切ですか？
- ② 学習指導要領を見て、児童の学びの範囲を捉える。
- ③ 教材を見て、捉える。（教材解釈）
- ④ 授業のねらいと発問、ゴールを考える。

主題を捉え、内容項目を絞る  
ねらいを絞る（実態に合わせ、  
質を高めていく）

人間理解（人間の弱さ）の観点  
を捉える

価値項目における児童の学びの  
範囲を捉える

教材解釈をして、時間をかけてし  
っかり扱うところやねらいにつ  
ながる場面はどこになるのかを  
検討する  
※物語を構造的にみる。  
※時系列に並べる。

授業の最後には、子供からどのよ  
うな言葉が出てきたらよいか考  
える。

### 教材を深く読み取る

- 人物の変容がみられるところ、主題に関わる場所を読み取る。  
→ 中心発問へつなげる。
- 教材にある児童の思考を深めるための言葉を正確に捉え、逃さないようにする。  
→ 考え、議論する授業へと展開。
- 教材の言葉・意味を忠実に読み取る。  
→ 児童に忠実に提示・発言していくことを意識する。  
（例：迷い⇔なやみ では意味が違う）
- 児童の思考を切らない発問ができるように教材研究を行う。  
→ 板書計画へつなげる。



【2】教材解釈：教材のどこを用いて授業を作るのか捉えよう

<p>⑤教材を読み、本時の主題を焦点化しましょう。 ※この教材は、内容項目の概要のどの部分を特に考えさせたい教材だと思いますか？</p>	<p>⑥教材のどんなところから⑤のように考えましたか。 ※中心人物の心の動きに注目して考えてみましょう。</p>	<p>⑦この主題を実現することの「難しさ」は、どのように教材に描かれていますか。 ※人間の弱さ、醜さ、葛藤を描いている部分を探しましょう。</p>	<p>⑧難しさを越えて大切にしたい「それでもなおの大切さ」は、どのように教材に描かれていますか。 ※葛藤を乗り越えようとする部分やよりよく生きていこうとする部分を探しましょう。</p>

【3】授業のねらいと発問、そしてゴールを考えよう

<p>⑨ねらい⇒「・・・することを通して、～～とする道徳的判断力(心情、実践意欲と態度)を高める。」</p>
<p>ねらい「</p>
<p>⑩⑦を捉えさせる発問はどんなものが考えられますか。また、その人間の弱さに共感させる発問も考えてみましょう。</p>
<p>⑪⑧を捉えさせる発問はどんなものが考えられますか。また、その人間の強さに共感させる発問も考えてみましょう。</p>
<p>⑫ゴールの姿⇒授業の最後には、例えばどのような言葉が子供から出てくるよいでしょう。</p>
<p>子供が自分の言葉で価値を再定義すると、例えば「</p>

●上記を基に、思考を促す板書計画も作成していきましょう！ (2021年度改訂版 宮里智恵作成)